

## 20240917賛成討論原稿

議長のお許しをいただきましたので、会派みらいを代表して、認定第1号 令和5年度武豊町一般会計歳入歳出決算認定について賛成の立場で討論を行います。

令和5年度一般会計歳入総額は185億8769万円、歳出総額は 176億8488万2千円。予算に対しての比率は、歳入は97.2%、歳出は 92.4%となり、歳入歳出差引額は9億280万8千円の黒字でした。また、翌年度へ繰り越すべき財源6億9146万8千円を差し引いた実質収支額は2億1134万円となりました。

歳入について、町税では、新型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行したこともあり、収入額が117億9130万1千円と大きく増加し、収入全体の63.4%でした。特に固定資産税が 34 億 7228 万 4 千円と昨年に比べ大きく増加しました。

収納率は 98.7%と昨年より0.3%の増の高い徴収率となっておりますが、今後とも公正を期すため、不納欠損、収入未済額のさらなる削減をし、より調定額に近づけるよう一層の努力を期待します。

### 歳出について

人事として、新たな職員配置として行政職員9名、保育士6名、任期付職員6名の計21名としたものの昨年より5名減。特に保育所、児童クラブでの雇用の難しさが見られたが、シルバー人材派遣などを利用し、適正な人員配置が行われた。

DX の取組みとして、職員が利用する端末にタブレットの導入、AI-OCR サービスや RPA ソフトを利用し業務の効率化を進められた。またマイナンバーカードの交付枚数率は昨年度の66.6%から79.4%と大きく増加した。また、スマートフォンの決済アプリ等のキャッシュレス納付の拡大、コンビニ交付サービスなどが行われ、町民の利便性が増しました。

町政70周年記念イベントとして、ギネス世界記録への挑戦では達成基準の250人を大きく上回る376人で達成しました。また、第7回武豊ふれあい山車まつりに向け、準備委員会を発足しました。

福祉として、ライフラインや食糧費の価格高騰に対し、給付金給付事業を行い、住民税非課税世帯などにひと世帯3万円、家計急変世帯に7万円を給付しました。重層的支援体制整備事業はさらに充実し、複雑な事情により困難を抱える家庭の支援が丁寧に行われました。また、障がい者計画・障がい者福祉計画・障がい児福祉

計画の策定がされ、今後の方向性が決定しました。子育てについては令和6年度のこども計画策定に向けアンケートが行われました。

衛生として、新型コロナウイルス感染症関連として昨年度に引き続きワクチンの接種事業、住民の健康増進として健康たけとよ 21 スマイルプランの充実、ほかに妊娠8か月サポートコール事業、妊産婦タクシー料金助成など妊産婦への支援の充実が図られました。また、不妊治療助成の拡大により、対象者の経済的負担がより軽減されました。

地球温暖化対策として、昨年引き続き公共施設再生可能エネルギー導入可能性調査、住宅用地球温暖化対策設備設置・次世代自動車購入費補助などゼロカーボン事業の充実を図りました。

次に、農林水産としては、地域農業整備促進事業による農用地区域の管理、農地流動化促進事業により遊休農地の解消と担い手農家の育成を行いました。また、資材高騰に対して経費の一部を助成し、営農にむけた安定生産を支えました。

次に、商工として、各種イベントを開催し、商店街事業を始めとする各種補助制度により商工業振興に寄与しました。また、生活応援券の発行により町民の家計負担の軽減と地域経済の支援を行いました。

次に、土木として、道路改良工事、河川維持工事などが計画的に行われました。都市計画においては、名鉄駅西グランドデザインや都市再生整備計画、無電柱化推進事業など本町の将来の都市計画について検討されました。

次に、消防費では、南海トラフの被害想定を受け、地震及び津波対策を強化するため防災リーダー養成講座、西日本電信電話株式会社との締結などが行われました。

次に、教育では、小中学校においては「いじめ・不登校対策」についてさらに充実が図られました。GIGA スクール構想は児童生徒にタブレットが一人1台支給され教職員によりより有効に活用されています。教職員は他の自治体に比べても充実した加配がされており、児童生徒の学びの支援を積極的に行っています。また、すべての学校において屋内運動場に空調設備が設置されました。

また、有形民俗文化財として三井家住宅の修理補助、公民館では家庭教育、社会教育事業が多く行われました。町民会館では多くの文化事業が全世代に向け開催

され、アウトリーチもさらに充実した運営をされていました。町外からも多くのかたが訪れました。屋内温水プール運営事業については、モニタリング調査を行いながら学校プール事業を始め、町民の健康を維持する取り組みなど適切な運営ができていました。

全体的には、令和4年度に引き続き、地域の絆を取り戻すための「絆予算」では、12事業において有効に利用され、コロナ禍で希薄になった人間関係が加速的に取り戻されているのを感じました。ゼロカーボンシティの取り組みとして、照明のLED化や太陽光パネルの設置を計画的に進めました。

また、委託金・補助金・助成金制度においては目的の達成に向けてさらなる発展的・経済的な執行に努めていただきたいと思います。

最後に、令和5年度はこども家庭庁の発足、新型コロナウイルス感染症の5類移行、能登半島地震の発生など、急な対応が求められる中、多くの事業並びに各種イベントの執行について、職員一丸となって携わっていただいたことに、心から感謝と敬意を表します。

以上、町民の要望に応えるため、各事業に対して丁寧で細やかな執行がされていることから、会派みらいとしては本決算について認定することに至りましたので、各議員におかれましても認定賜りますようお願いいたします。

これをもって、認定第1号 令和5年度武豊町一般会計歳入歳出決算認定についての賛成討論いたします。